

様式第2号の1-②【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の1-①を用いること。

学校名	東京スポーツ・レクリエーション専門学校
設置者名	学校法人 滋慶学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

課程名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数又は授業時数	省令で定める基準単位数又は授業時数	配置困難
文化・教養専門課程	スポーツトレーナー科 (2年制)	夜・通信	72単位	6単位	
	アスレティックトレーナー養成科昼間部 (2年制)	夜・通信	102単位	6単位	
	コーチ・スポーツインストラクター科 (2年制)	夜・通信	142単位	6単位	
	こども保育スポーツ科 (3年制)	夜・通信	49単位	9単位	
商業実務専門課程	スポーツビジネス科 (2年制)	夜・通信	21単位	6単位	
文化・教養専門課程	アスレティックトレーナー養成科土日部 (2年制)	夜・通信	61単位	4単位	
(備考)					

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

HPにて授業科目一覧を公開。授業科目一覧の中で、教員の実務経験に関するチェック欄あり。 (掲載： https://www.tsr.ac.jp/education/)

3. 要件を満たすことが困難である学科

学科名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	東京スポーツ・レクリエーション専門学校
設置者名	学校法人 滋慶学園

1. 理事（役員）名簿の公表方法

HPにて理事名簿を公開している。
(掲載：<https://www.tsr.ac.jp/pdf/jyohou/member.pdf>)

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	株式会社役員	2019.4.1 ~ 2021.5.31	地域との連携
非常勤	株式会社役員	2018.6.1 ~ 2021.5.31	適切な情報収集
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	東京スポーツ・レクリエーション専門学校
設置者名	学校法人 滋慶学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画(シラバス)を作成し、公表していること。</p>	
<p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要) (スポーツトレーナー科(2年制)、アスレティックトレーナー養成科昼間部(2年制)、アスレティックトレーナー養成科夜間部(2年制)、コーチ・スポーツインストラクター科(2年制)、こども保育スポーツ科(3年制)、スポーツビジネス科(2年制))</p> <p>【作成について】 各授業科目については、毎年度、教務部においてカリキュラムプレゼンをおこない検討・検証をおこない、それを踏まえて各授業を担当する教員により、作成をおこなっている。</p> <p>カリキュラムプレゼンは、業界動向やニーズを鑑み、必要に応じて養成目的、教育目標、学年目標を見直している。これを基にカリキュラムの見直しを検討している。カリキュラムについては、最新の知識・技術を取り入れることを目的に、教育課程編成委員会の委員からの意見も取り入れている。各授業においては、より効果的な学習となるように改善点をシラバスに反映できるようにしている。</p> <p>シラバスは学内共通の様式で作成している。シラバスには、科目名、授業形態(講義・演習・実習)、担当教員名、時間数・単位数、開講時期・曜日・時限、到達目標、授業計画(各回の授業内容)、使用教科書・教材、評価方法に加え、授業の学習内容と心構え(実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか具体的に記載する)を必須項目としている。</p> <p>【時期について】 翌年度の授業計画(シラバス)はカリキュラムプレゼンの決定を踏まえて、毎年、12月～2月に担当教員が作成する。内容については学科責任者のチェックを得て、教務部長が最終的に確認する。HPには4月に今年度のシラバスを公開する。</p>	
授業計画書の公表方法	掲載 https://www.tsr.ac.jp/education/
<p>2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。</p>	

(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)

学則施行細則において、学内の成績評価、履修、卒業要件について規程している。各科目について授業点（授業内試験）および定期試験の合計点、または報告書により成績評価をおこなっている。実習科目についても評価基準を設定している。

定期試験の受験資格（出席率）および実習参加の要件を定めている。

(参考) 学則施行細則

第 10 条

各科目において授業点 40 点、定期試験 60 点の合計点、または報告書により A から F の 6 段階評価をおこなう（注：A～D 合格、E～F 不合格）

第 11 条

実習評価は実習前教育、実習施設の評価、実習後教育の 3 要素で評価する。

第 11 条 2

評価基準（A～E）は「科目評価の基準」を準用する。

第 11 条 3

実習参加の最低条件は以下の項目の全てを満たす者である。

- (1) 実習までの履修科目の出席率がすべて良好であること
- (2) 実習に対して十分な目的意識とやる気を有していること。
- (3) 身体的・精神的・社会的に実習に耐えうる健康状態であること。
- (4) 身なりや態度が実習に臨むにふさわしいと判断された者。
- (5) 実習前試験に合格した者であること。

第 11 条 5

現場実習の出席時間数が必要時間数に満たない者は、修了の認定を行わない。

第 12 条

1 つの学期につき、同一科目を定期試験日も含めて総時間数の出席率 70% 未満の者は、その科目の定期試験を受験することができない。（E 評価）

3. 成績評価において、G P A 等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。

(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)

学則施行細則において、G P A (Grade Point Average) について記載しており、学内の成績評価として使用している。当校では、卒業時の表彰基準、就職の推薦などに活用している。

(参考) 学則施行細則

第 10 条

各科目において授業点 40 点、定期試験 60 点の合計点、または報告書により A から F の 6 段階評価をおこなう（注：A～D 合格、E～F 不合格）

第 10 条 2

A－90 点～100 点 B－80 点～89 点 C－70 点～79 点 D－60 点～69 点（合格）
E－出席不良 F－59 点以下（不合格）

第 10 条 3

前項の成績評価による学業結果を総合的に判断する指標として、総合平均点（いわゆる Grade Point Average に相当するもの。以下「GPA」という。）を用いる。

第10条4

前項に定めるGPAは、2項の成績評価に以下の評価点をそれぞれ与え、各授業科目の評価点にその単位数を乗じて得た積の合計を、登録科目の総単位数で除して算出する。 A-4.0 B-3.0 C-2.0 D-1.0 E-0 F-0

成績評価方法については、学則施行細則の内容をHPで公開するほか、入学時のオリエンテーション時に学生便覧を入学生に配布し、通知している。

(注) 上記のA～Fの評価基準は2019年度入学生から適用している。2018年度までの入学生は、A-80点～100点 B-70点～79点 C-60点～69点(合格)
D-59点以下、E-出席不良(不合格)で評価している。
A-3.0 B-2.0 C-1.0 D-0 E-0 の評価点を用いて成績の分布について把握できている。

客観的な指標の
算出方法の公表方法

掲載

https://www.tsr.ac.jp/pdf/education/school_regulation_s.pdf

4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。

(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)

東京スポーツ・レクリエーション専門学校は、多様化するスポーツ業界、レクリエーション業界、医療業界で活躍する専門家に必要な知識・技術を身につけ、加えて、生きがい、コミュニケーションの知識・技術を身につけた人材を養成し、人々が健康で生きがいに満ちた社会の実現を目指すことを目的としています。

卒業要件については、「学年ごとに必修単位数を取得し、学校長が適当と認めた者は卒業となる」「卒業・進級については、卒業進級判定会議で決定となる」ことを定めている。なお、卒業進級判定会議は学校長主催にて開催している。

詳細についてはディプロマポリシーを始め、学生便覧等に記載している。

当校ではディプロマポリシー(卒業の認定に関する方針)を策定し、HPに公表している。

<学則>

第26条 本校所定の課程を修了した者には卒業証書を授与する。

<学則施行細則>

第19条 学年ごとに必要最低単位数を得た者は、進級することができる。

2. 学年ごとに必修単位数を取得し、学校長が適当と認めた者は卒業となる。

3. 進級・卒業については、卒業進級判定会議にて決定となる。

卒業の認定に関する
方針の公表方法

掲載

https://www.tsr.ac.jp/pdf/education/school_regulation_s.pdf

様式第2号の4-②【(4)財務・経営情報の公表（専門学校）】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の4-①を用いること。

学校名	東京スポーツ・レクリエーション専門学校
設置者名	学校法人 滋慶学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	毎年6月上旬に最新情報をHP公開している。 https://www.tsr.ac.jp/pdf/jyouhou/account_settlement_h30.pdf
収支計算書又は損益計算書	同上
財産目録	同上
事業報告書	https://www.tsr.ac.jp/pdf/jyouhou/business_report_h30.pdf
監事による監査報告（書）	https://www.tsr.ac.jp/pdf/jyouhou/audit_report_h30.pdf

2. 教育活動に係る情報

①学科等の情報

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
文化・教養		文化・教養 専門課程	スポーツトレーナー 科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	90 単位時間/単位	67 単位時間 単位	94 単位時間 単位	14 単位時間 単位	単位時間 /単位	単位時間 /単位
			単位時間/単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
320人		294人	2人	9人	24人	33人	

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)
(概要) 様式第2号の3【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の1.を参照
成績評価の基準・方法
(概要) 様式第2号の3【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の3.を参照
卒業・進級の認定基準
(概要) 様式第2号の3【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の4.を参照
学修支援等
(概要) 担任制をとり学生との個人面談を定期的実施している。日々の出席状況の確認を実施し、問題・課題があれば直ぐに対応できる体制をとっている。また、必要に応じ、保護者、学園グループのカウンセラーおよび医療機関との連携を図っている。 科目評価においては、100点中40点は授業内試験で評価している。その回の授業の理解度を高めるとともに、授業内試験の積み重ねが定期試験に繋がるようにしている。授業は現場経験の豊富な講師陣を配置し、学生が関心を持ち、取り組める内容になるように工夫している。

卒業生数、進学者数、就職者数 (直近の年度の状況を記載)			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
108人 (100%)	10人 (9.2%)	95人 (88.0%)	3人 (2.8%)
(主な就職、業界等) プロスポーツチーム・実業団、トレーニングジム、フィットネスクラブ 等			

<p>(就職指導内容)</p> <p>個人面談、就職講座、模擬面接会、履歴書指導、面接練習、マナー講座、着こなし講座等</p>
<p>(主な学修成果(資格・検定等))</p> <p>アスレティックトレーナー、パーソナルトレーナー(NSCA-CPT)、トレーニング指導者(JATI-ATI)、健康運動実践指導者、フィットネスマネジメント検定、ベーシックライフサポート(BLS)、救急法救急員</p>
<p>(備考) (任意記載事項)</p>

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
282人	25人	8.9%
<p>(中途退学の主な理由)</p> <p>海外留学、他専門分野への進路変更、心身の健康不全、学習意欲の低下、生活習慣の乱れ等</p>		
<p>(中退防止・中退者支援のための取組)</p> <p>学生全員との個人面談を年2回実施している。必要に応じて個別面談を実施している。サポートアンケートを実施し、学生が抱える課題や問題点を把握できるようにしている。必要に応じて心理カウンセラーへ繋ぐ体制をとっている。</p>		

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士			
文化・教養	文化・教養 専門課程	アスレティックトレーナー養成科昼間部	○				
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	108 単位時間/単位	47単 単位時間 /単位	68 単位時間 /単位	単位時間 /単位	単位時間 /単位	単位時間 /単位
			単位時間/単位				
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
80人	59人	1人	4人	36人	40人		

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)
(概要) 様式第2号の3【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の1.を参照
成績評価の基準・方法
(概要) 様式第2号の3【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の3.を参照
卒業・進級の認定基準
(概要) 様式第2号の3【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の4.を参照
学修支援等
(概要) 担任制をとり学生との個人面談を定期的に行っている。日々の出席状況の確認を実施し、問題・課題があれば直ぐに対応できる体制をとっている。また、必要に応じ、保護者、学園グループのカウンセラーおよび医療機関との連携を図っている。 科目評価においては、100点中40点は授業内試験で評価している。その回の授業の理解度を高めるとともに、授業内試験の積み重ねが定期試験に繋がるようにしている。授業は現場経験の豊富な講師陣を配置し、学生が関心を持ち、取り組める内容になるように工夫している。

卒業生数、進学者数、就職者数 (直近の年度の状況を記載)			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
36人 (100%)	0人 (0.0%)	30人 (83.3%)	6人 (16.7%)
(主な就職、業界等) プロスポーツチーム、トレーナー企業、フィットネスクラブ 等			
(就職指導内容) 個人面談、就職講座、模擬面接会、履歴書指導、面接練習、マナー講座、着こなし講座等			

<p>(主な学修成果 (資格・検定等))</p> <p>アスレティックトレーナー、救急法救急員、パーソナルトレーナー (NSCA-CPT)、 トレーニング指導者 (JATI-ATI)、健康運動実践指導者</p> <p>(備考) (任意記載事項)</p>

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
64人	5人	7.8%
<p>(中途退学の主な理由)</p> <p>心身の健康不全、妊娠、生活習慣の乱れ 等</p>		
<p>(中退防止・中退者支援のための取組)</p> <p>学生全員との個人面談を年2回実施している。必要に応じて個別面談を実施している。サポートアンケートを実施し、学生が抱える課題や問題点を把握できるようにしている。必要に応じて心理カウンセラーへ繋ぐ体制をとっている。</p>		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
文化・教養		文化・教養 専門課程	コーチ・スポーツイン ストラクター科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	90 単位時間/単位	48 単位時間 単位	208 単位時間 /単位	73 単位時間 /単位	単位時間 /単位	単位時間 /単位
			単位時間/単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
120人		82人	1人	3人	31人	34人	

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)
(概要) 様式第2号の3【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の1.を参照
成績評価の基準・方法
(概要) 様式第2号の3【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の3.を参照
卒業・進級の認定基準
(概要) 様式第2号の3【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の4.を参照
学修支援等
(概要) 担任制をとり学生との個人面談を定期的実施している。日々の出席状況の確認を実施し、問題・課題があれば直ぐに対応できる体制をとっている。また、必要に応じ、保護者、学園グループのカウンセラーおよび医療機関との連携を図っている。 科目評価においては、100点中40点は授業内試験で評価している。その回の授業の理解度を高めるとともに、授業内試験の積み重ねが定期試験に繋がるようにしている。授業は現場経験の豊富な講師陣を配置し、学生が関心を持ち、取り組める内容になるように工夫している。

卒業生数、進学者数、就職者数 (直近の年度の状況を記載)			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
40人 (100%)	0人 (0.0%)	40人 (10.0%)	0人 (0.0%)
(主な就職、業界等) フィットネスクラブ、スポーツクラブ、リラクゼーションスタジオ、プロスポーツチーム・実業団、各種教育機関(コーチ)、外部指導員(コーチ)、ダイビングショップ、リゾートホテル(ビーチスタッフ)、マリンスポーツショップ、作業潜水(潜水士)等			

<p>(就職指導内容)</p> <p>個人面談、就職講座、模擬面接会、履歴書指導、面接練習、マナー講座、着こなし講座等</p>
<p>(主な学修成果(資格・検定等))</p> <p>ベーシックライフサポート(BLS)、健康運動実践指導者、フィットネスクラブ・マネジメント(FCM)技能検定、公認サッカーC級コーチ、公認3級審判員(サッカー)、アドヴァンスト・オープン・ウオーター・ダイバー(AOW)、レスキュー・ダイバー(RED)、潜水士免許 等</p>
<p>(備考) (任意記載事項)</p>

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
87人	1人	1.1%
(中途退学の主な理由) 大学院進学		
(中退防止・中退者支援のための取組) 学生全員との個人面談を年2回実施している。必要に応じて個別面談を実施している。サポートアンケートを実施し、学生が抱える課題や問題点を把握できるようにしている。必要に応じて心理カウンセラーへ繋ぐ体制をとっている。		

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士			
文化・教養	文化・教養 専門課程	こども保育スポーツ 科	○				
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
3年	昼	147 単位時間/単位	54単 単位時間/ 単位	73単 単位時間/ 単位	28単 単位時間/ 単位	単位時 間/単位	単位時 間/単位
			単位時間/単位				
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
120人	74人	人	3人	22人	25人		

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)
(概要) 様式第2号の3【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の1.を参照
成績評価の基準・方法
(概要) 様式第2号の3【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の3.を参照
卒業・進級の認定基準
(概要) 様式第2号の3【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の4.を参照
学修支援等
(概要) 担任制をとり学生との個人面談を定期的実施している。日々の出席状況の確認を実施し、問題・課題があれば直ぐに対応できる体制をとっている。また、必要に応じ、保護者、学園グループのカウンセラーおよび医療機関との連携を図っている。 科目評価においては、100点中40点は授業内試験で評価している。その回の授業の理解度を高めるとともに、授業内試験の積み重ねが定期試験に繋がるようにしている。授業は現場経験の豊富な講師陣を配置し、学生が関心を持ち、取り組める内容になるように工夫している。

卒業生数、進学者数、就職者数 (直近の年度の状況を記載)			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
31人 (100%)	0人 (0.0%)	31人 (100.0%)	0人 (0.0%)
(主な就職、業界等) 保育所、幼稚園、幼児・児童体育指導派遣企業、フィットネスクラブ、サッカークラブ、トレーニングジム			

<p>(就職指導内容)</p> <p>個人面談、就職講座、模擬面接会、履歴書指導、面接練習、マナー講座、着こなし講座等</p>
<p>(主な学修成果(資格・検定等))</p> <p>保育士、幼稚園教諭二種免許、社会福祉主事任用資格、ジュニアスポーツ指導員、キッズコーディネーショントレーニング資格、キャンプインストラクター、ベーシックライフサポート(BLS)</p>
<p>(備考) (任意記載事項)</p>

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
81人	0人	0.0%
(中途退学の主な理由) 大学院進学		
(中退防止・中退者支援のための取組) 学生全員との個人面談を年2回実施している。必要に応じて個別面談を実施している。サポートアンケートを実施し、学生が抱える課題や問題点を把握できるようにしている。必要に応じて心理カウンセラーへ繋ぐ体制をとっている。		

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士			
商業実務	商業実務 専門課程	スポーツビジネス科	○				
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	9 6 単位時間/単位	9 単位時間 単位	1 1 2 単位時間 /単位	6 7 単位時間 /単位	単位時間 /単位	単位時間 /単位
			単位時間/単位				
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
160人	144人	人	4人	20人	24人		

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)
(概要) 様式第2号の3【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の1.を参照
成績評価の基準・方法
(概要) 様式第2号の3【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の3.を参照
卒業・進級の認定基準
(概要) 様式第2号の3【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の4.を参照
学修支援等
(概要) 担任制をとり学生との個人面談を定期的に行っている。日々の出席状況の確認を実施し、問題・課題があれば直ぐに対応できる体制をとっている。また、必要に応じ、保護者、学園グループのカウンセラーおよび医療機関との連携を図っている。 科目評価においては、100点中40点は授業内試験で評価している。その回の授業の理解度を高めるとともに、授業内試験の積み重ねが定期試験に繋がるようにしている。授業は現場経験の豊富な講師陣を配置し、学生が関心を持ち、取り組める内容になるように工夫している。

卒業生数、進学者数、就職者数 (直近の年度の状況を記載)			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
35人 (100%)	0人 (0.0%)	35人 (100.0%)	0人 (0.0%)
(主な就職、業界等) スポーツチーム、スポーツショップ、スポーツメーカー、スポーツクラブ、スポーツイベント関連企業、スポーツマネジメント関連企業、スポーツメディア関連企業 等			

<p>(就職指導内容)</p> <p>個人面談、就職講座、模擬面接会、履歴書指導、面接練習、マナー講座、着こなし講座等</p>
<p>(主な学修成果(資格・検定等))</p> <p>ベーシックライフサポート(BLS)、販売士2級・3級、Photoshop クリエーター能力試験</p>
<p>(備考) (任意記載事項)</p>

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
94人	2人	2.1%
<p>(中途退学の主な理由)</p> <p>大学院進学</p>		
<p>(中退防止・中退者支援のための取組)</p> <p>学生全員との個人面談を年2回実施している。必要に応じて個別面談を実施している。サポートアンケートを実施し、学生が抱える課題や問題点を把握できるようにしている。必要に応じて心理カウンセラーへ繋ぐ体制をとっている。</p>		

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士			
文化・教養	文化・教養 専門課程	アスレティックトレーナー養成科土日部	○				
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	夜	108 単位時間/単位	40単 単位時間 /単位	68 単位時間 /単位	単位時間 /単位	単位時間 /単位	単位時間 /単位
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
80人	36人	人	4人	36人	40人		

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)
(概要) 様式第2号の3【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の1.を参照
成績評価の基準・方法
(概要) 様式第2号の3【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の3.を参照
卒業・進級の認定基準
(概要) 様式第2号の3【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の4.を参照
学修支援等
(概要) 担任制をとり学生との個人面談を定期的に行っている。日々の出席状況の確認を実施し、問題・課題があれば直ぐに対応できる体制をとっている。また、必要に応じ、保護者、学園グループのカウンセラーおよび医療機関との連携を図っている。 科目評価においては、100点中40点は授業内試験で評価している。その回の授業の理解度を高めるとともに、授業内試験の積み重ねが定期試験に繋がるようにしている。授業は現場経験の豊富な講師陣を配置し、学生が関心を持ち、取り組める内容になるように工夫している。

卒業生数、進学者数、就職者数 (直近の年度の状況を記載)			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
16人 (100%)	0人 (0.0%)	13人 (81.3%)	3人 (18.7%)
(主な就職、業界等) プロスポーツチーム、トレーナー企業、フィットネスクラブ 等			
(就職指導内容) 個人面談、就職講座、模擬面接会、履歴書指導、面接練習、マナー講座、着こなし講座等			

(主な学修成果 (資格・検定等)) アスレティックトレーナー、救急法救急員、パーソナルトレーナー (NSCA-CPT)、 トレーニング指導者 (JATI-ATI)、健康運動実践指導者 (備考) (任意記載事項)

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
31人	1人	3.2%
(中途退学の主な理由) 大学院進学		
(中退防止・中退者支援のための取組) 学生全員との個人面談を年2回実施している。必要に応じて個別面談を実施している。サポートアンケートを実施し、学生が抱える課題や問題点を把握できるようにしている。必要に応じて心理カウンセラーへ繋ぐ体制をとっている。		

②学校単位の情報

a) 「生徒納付金」等

学科名	入学金	授業料 (年間)	その他 (年間) (上段:1年次) (下段:2年次以降)	備考 (任意記載事項)
スポーツトレーナー科	100,000 円	880,000 円	385,000 円 400,000 円	
アスレティックトレーナー養成科昼間部		500,000 円	160,000 円 180,000 円	
コーチ・スポーツインストラクター科		880,000 円	400,000 円 430,000 円	
こども保育スポーツ科		700,000 円	220,000 円 360,000 円	
スポーツビジネス科		880,000 円	400,000 円 400,000 円	
アスレティックトレーナー養成科土日部		500,000 円	160,000 円 180,000 円	
修学支援 (任意記載事項)				
特待生制度 1年次授業料の全額、半額、20万円、10万円、5万円のいずれかの免除 スポーツ実技特待試験または筆記特待試験の受験者対象 入学定員の15%以内を対象				

b) 学校評価

自己評価結果の公表方法 (ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) 前年度評価について、学校HPで公開している。 https://www.tsr.ac.jp/pdf/jyouhou/selfInspection_h30.pdf		
学校関係者評価の基本方針 (実施方法・体制) 学校関係者評価委員会を組織することによって、学校の教育活動そのものの質の向上、学校運営の改善・強化を推進していきます。学校関係者評価委員は学生保護者、卒業生、関係業界、高等学校、地域住民、自治体関係部局などの関係者で構成し、自己点検・自己評価の結果に基づいて行なう学校関係者評価の実施とその結果の公表・説明をおこない、学校関係者からの理解と参画を得て、意見、評価をいただきます。 学校関係者評価委員会を活用し、学校の現状について適切に説明責任を果たすとともに、地域における学校関係者と学校との連携強化を推進し、日々教職員の教育力・運営力向上に努めていきます。		
学校関係者評価の委員		
所属	任期	種別
スポーツ関係企業 代表取締役	2018. 4. 1～2020. 3. 31	業界
スポーツ競技協会 チーフトレーナー	2018. 4. 1～2020. 3. 31	業界
大学 (スポーツ関連学部) 教授	2018. 4. 1～2020. 3. 31	業界

スポーツ競技連盟（地域） 副理事長	2018. 4. 1～2020. 3. 31	地域
スポーツ関連機器会社 社員	2018. 4. 1～2020. 3. 31	卒業生
高等学校 校長	2018. 4. 1～2020. 3. 31	高等学校
会社員	2018. 4. 1～2020. 3. 31	保護者
学校関係者評価結果の公表方法		
（ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法） 前年度評価について、学校HPで公開している。 https://www.tsr.ac.jp/pdf/jyouhou/schoolrele_h30.pdf		
第三者による学校評価（任意記載事項）		
平成25年度に特定非営利活動法人私立専門学校等評価研究機構による第三者評価を受けている。 http://www.hyouka.or.jp/n-hkekkafiles/25-2-report-toky_sports_recreation.pdf		

c) 当該学校に係る情報

（ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法） https://www.tsr.ac.jp/jyouhou/
--